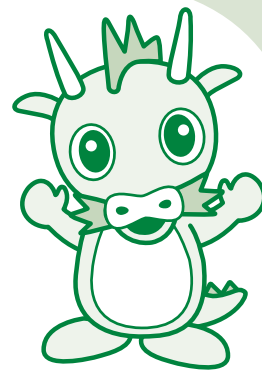
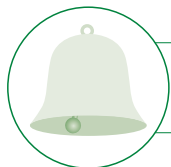


鐘の音

～かねのね～



vol.42
2019.10 発行



大宮の古い地名「鐘塚」。そこに建てられた「パートナーシップさいたま」から男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、そんな願いを込めて名づけました。

令和元年度講座のご案内

講座のお申込み時期については、
パートナーシップさいたまのホームページ
でも随時お知らせします。詳しくはこちらへ→



DV防止セミナー

「機能不全家族」に育った当時の経験や感情、傷つきに気づき、さまざまな学びを経て回復していく過程についてお話を伺うセミナーです。

日時 11月17日(日) 14時～16時
会場 生涯学習総合センター10階 多目的ホール
講師 菊池 真理子さん(漫画家)



傷ついた心のケア講座

DV・モラハラなどで傷ついた心を抱えている方が、心身の回復のため、安全な場の中で自分の心と向き合うための講座です。

日時 10月30日、11月27日、12月18日(いずれも水曜日)
1月27日、2月17日、3月16日(いずれも月曜日) 10時～12時
会場 10～12月 プラザイースト(緑区)
1～3月 パートナーシップさいたま(大宮区)
講師 西山 さつきさん(NPO法人レジリエンス)
宇野 慶子さん(蒼い空の会)

さいたま市民大学男女共同参画コース

「『男・女』ではなく『私らしさ』を考える」をテーマに、講義・映像・ワークショップを通して「私らしさ」について学びます。

日時 12月3(火)、6(金)、10(火)、17(火)、1月14日(火) 14時～16時
会場 生涯学習総合センター10階 多目的ホール
講師 萩原 なつ子さん(立教大学 教授)
安齋 徹さん(目白大学 教授)
村瀬 幸浩さん(元一橋大学・津田塾大学 講師)
原 ミナ汰さん(NPO法人共生社会をつくるセクシャルマイノリティ支援全国ネットワーク 代表理事)
熟田 桐子さん(東京メンタルヘルス 心理カウンセラー)
主催 さいたま市教育委員会(パートナーシップさいたまとの連携)

市民企画講座

①これも防災?暮らしから生まれる家族やペットを守る仕組み(主催:浦和〇〇部(うらわまるまるぶ))
日時 10月20日(日) 10時～15時
会場 パートナーシップさいたま
②産前・産後のカラダケア講座(主催:HAGURUMA)
日時 (1)10月26日(土)「産前産後のカラダ」
(2)11月17日(日)「抱っこひものトリセツ」
(3)12月15日(日)「産後ママの骨盤ケア」
(4)1月18日(土)「更年期とワタシ」
各日とも13時～14時30分
会場 パートナーシップさいたま



パートナーシップさいたま出前講座

さいたま市内の学校・事業所等へ、テーマごとに専門の講師を無料で派遣します。お気軽にパートナーシップさいたまへお問い合わせください。

【テーマ】①ワーク・ライフ・バランス ②デートDV防止 ③性の多様性



男女共同参画週間記念事業

「百年の女」から見えてくるもの ～変わった? 変わらない? 女の生き方～

口で話しています。現代の男女の関係性が、フ

と話をされています。家族や夫婦の関係性について、「サザエさん」を例にお話しされました。フネさんは波平さんに敬語で、サザエさんはマスオさんにタメ

ました。結婚観や恋愛観について、戦前ではお見合い結婚が7割で、恋愛結婚に至っては1割程度だったそうです。しかし、1960年代を境にその割合が逆になり、結婚相手を自分で見つけないといけない、それが「晩婚化」につながったのではないかとのことでした。加えて、現代の女性は、「おひとりさま」などの生き方を自由に選択できることも話されています。

- ① 女性の社会的進出
- ② 結婚観、恋愛観
- ③ 家族、夫婦の関係

に、100年にわたる女性の在り方の変遷について、当時の日本社会の実情も交えながら以下の内容を軸に話されていました。



7月13日、作家の酒井順子先生のトークショーに参加しました。「婦人公論」のバックナンバー1,400冊余りを読み、整理した著作「百年の女―『婦人公論』が見た大正、昭和、平成―」をベース

ラット化している一例としてあげていました。後半の質問タイムでは、多くの参加者が手を挙げ、酒井先生は丁寧に回答されていました。中でも、「女性が幸せになるために『婦人公論』はどのような役割を担ってきましたか」という質問で、「婦人公論」は、読者層も幅広く、結婚、仕事、カルチャーなど多岐にわたるテーマを取り上げています。幸福な人生でも不安は常にあり、幸運を求める人が増えてきました。その幸運を見つめる糸口がこの雑誌にあると思います」という答えがとても印象に残りました。

(志田 小夜子)



「百年の女―『婦人公論』が見た大正、昭和、平成―」

酒井順子 著
(2018年6月刊行 中央公論新社)

『婦人公論』創刊100周年を記念して刊行。当時の日本社会と、女性の生き方の変遷を丁寧に綴った一冊です。

※『婦人公論』(中央公論新社)は、1916年に創刊、女性の様々な幸せを追求することをコンセプトとした雑誌です。

Book Navi

情報コーナーで貸し出し中の図書のご案内です

男の座標軸 企業から家庭・社会へ

鹿嶋敬著 岩波書店(1993)

仕事中心の男の座標軸を、家庭、地域等の生活軸の方向に転換するために、自分が置かれている状況を把握し、これからの生き方を模索する上で意識を変える際の問題提起本です。

働く女性のメンタルヘルス

知っているのと知らないのでは大違い

大槻久美子著 かもがわ出版(2010)

職場での女性の役割がとて重要になる中で、元気で、生き生きと、楽しく、そして、美しく一生懸命に働こうとしている働く女性のための応援本です。

(新藤 賢十郎)

～男のためのイマドキ社会学集中講義～



全4回の講座の参加者は20代から85歳までの方々。受付をして部屋に入っても挨拶をするだけで、女性の講座のようなおしゃべりはなく静かでした。

講師の重川治樹さんは75歳、新聞記者生活35年を送り今は作家・ジャーナリスト。「今まで人生50年でセットされていたが寿命が延びてあっという間に100年時代になり、準備ができていない。展望が開けない、戸惑い参考にするモデルがなく不安だが過去を振り返り考えることでヒントを得られる」という重川さん。ご自身の生い立ちから恋愛論、そして結婚と離婚、父子家庭を経験して気づいた、「男病」について話されました。

重川さんもおっしゃっていましたが、家族は社会の基礎単位、家でできないことは社会に出てもできないと言われていきます。家庭の中で挨拶と、なんでも話せ、ささいなことも言い合える家族づくりが大事です。人と会って話をするのは認知症予防にもなると言われています。子どもが一人で生きていけるように、何でも親がやるのではなく、家事に参加させることが必要ではないでしょうか。

「おかしい・何か変」と思ったら女性も男性も声を上げて繋がり、ともに社会の問題解決が出来ると思えば、私自身も100年時代をどう元気に生きるか考えていきたいです。(武田 礼子)

参考資料

「父子家庭が男を救う」重川治樹著(論創社)

「居場所を取り戻そう、男たち…受難の時代を生きる」

庄司洋子、木本喜美子、重川治樹(東京女性財団)

第1回 「人生100年時代と男」 6月15日(土) 10時～12時

世界的に少子高齢化の最先端国である日本。今後の展望をどう描いて行けばいいのかを、男性を取り巻く状況をもとに考えてみる。

第2回 「地域と男」 6月15日(土) 13時～15時

勤務を中心にした生活サイクルは、いずれ終焉を迎える。その後も住み続けるはずの、地域とのつながりを持つことの大切さを知る。

第3回 「家族と男」 6月22日(土) 10時～12時

社会を構成する基本単位である家族の形は、この数十年で大きく変わっている。変化の過程を知り、家族とのかかわりを見直してみる。

第4回 「キャリアと男」 6月22日(土) 13時～15時

キャリアとは人生を構成する一連の出来事である。組織への所属と金銭的報酬だけではないキャリアについて学び、価値観を組み立て直すヒントをつかむ。

コラム

男性の育児休暇取得で
顕在化するパタハラ

元号が令和に変わって早々に、SNS(ソーシャルネットワークサービス)で育児明けの男性の妻が放った内容が話題となった。その内容は4万人ほどの共感を得、一連の投稿の閲覧数はおよそ500万回に昇り、勤務先の株価を年初来の最安値まで下落させるほどの影響を与えたのだ。事の発端はある40代共働き妻の悲痛な嘆きだった。「夫が育児から復帰後2日で、東京本社から関西への転勤辞令が出た。引越したばかりで子どもは来月入園。何もかもありえない。不当すぎる」というもの。

男性の育児取得率は着実に増えてきているものの、16%(厚生労働省「平成30年度雇用均等基本調査」)に留まっている。数字が伸びない理由の一つは、子育て世代の男性が働く職場にも大きな問題がある。育児を取る男性に嫌がらせや差別的発言をする「パタニティ(父性)ハラメント」が起きているのだ。前述の男性が勤める企業は、子育て支援のための行動計画を作成し認証されたことを示す「くるみん(次世代育成支援対策推進法認定マーク)」を取得している上場企業。それにも関わらず、パタハラとも思われかねない事態が起きたことは残念で仕方がない。

その一方で、喜ばしいこともある。育児参加する男性に、不当な扱いをする企業への評価が明らかになったことだ。意識の変化は数字で見えにくい。それをSNSが可視化した。その影響を受け、男性の育児強化を推進する動きも出てきた。個人の声を直接社会に伝えられる時代になった。男性が育児家事を積極的にこなせる社会の実現に、少しでも近づこう期待したい。(三澤 裕子)

パートナーシップさいたまのご案内

- 開館時間** 平日 9:00～21:00
土・日・祝日 9:00～17:00
- 休館日** 第4日曜日、年末年始
- 会議室利用** 男女共同参画の推進を目的とする活動にご利用ください。(利用登録が必要です)
- 情報・資料、交流コーナー** 本や雑誌、行政資料、ビデオ・DVDなどの貸出しをしています。また、話し合いの場にもご利用いただけます。

10月1日支払い分より**会議室の料金が変わりました**

料金表	9:00～12:00	13:00～17:00	18:00～21:00
会議室1(12人)	470円	620円	470円
会議室2(12人)	470円	620円	470円
会議室3(24人)	1,550円	2,060円	1,550円
プレイルーム(5人)	740円	990円	740円

※市外の方が利用する場合は、上記の額に100分の50を乗じて得た額を加算します。

相談のご案内

●相談は無料です。●秘密は厳守します。

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

子ども家庭総合センター 男女共同参画相談室*	☎048-711-6650
月～金/10:00～20:00 土・日・祝/10:00～16:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎048-829-6129
月・火・水・金/10:00～17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎048-840-6132
火・金/10:00～17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎048-790-0158
月・水/10:00～17:00	

●男性の悩み電話相談

男性の生き方、仕事、家庭、夫婦、人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室*	☎048-711-6101
第2・第4火曜日/18:30～20:30(祝日は除く)	

●女性のための法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

実施場所	パートナーシップさいたま 予約電話☎048-642-8107
実施日時	第2・第4水曜日/13:00～15:30
実施場所	男女共同参画相談室*
予約電話	☎048-711-5739
実施日時	第1・第3火曜日/13:00～15:30

●女性のための心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

男女共同参画相談室*	☎048-711-5739
第4月曜日/13:30～16:15	

※男女共同参画相談室は子ども家庭総合センター内にあります。
(所在地)さいたま市浦和区上木崎4丁目4番10号
(アクセス)JR与野駅東口より徒歩7分

●女性のDV電話相談

☎048-762-3880	月～金/10:00～17:00
---------------	-----------------

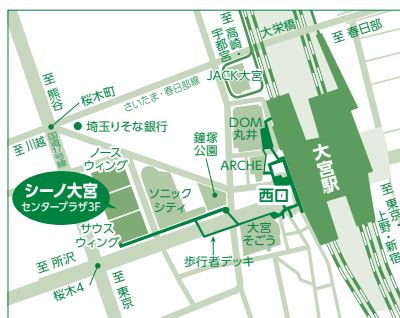
ほっとたいむ

1歳6ヶ月の息子は好奇心旺盛で、お散歩をするとき寄り道ばかりしてなかなか前に進まない。今日も家を出てすぐ、花壇の前で立ち止まった。それから20分ほど花壇の周りをうろちよろしている。

やっと歩きだしたと思ったら、「あ」と言っただけでまたしゃがみこんだ。なんだろうと上から覗きこんでみると一匹の蟻がいた。私も息子の隣にしゃがみこむ。なにを運んでいるんだろう。蟻をじっくり観察するなんて、子どものころ以来だった。子どもと一緒にいると視点が変わる。ビルの間に見える電車を見ついたり、消防車の種類が気になったり、今まで見えていた景色がすこし違って見えてくる。

息子が見つけた蟻の近くには、他の蟻もたくさんいる。もしかしたら巣が近くにあるのかもしれない。この蟻を追っていったら巣にたどり着けるだろうか。そんなことを考えていたら、息子がすくと立ち上がった。歩き始めた。蟻の行方に名残惜しさを残しつつ、息子の後を追って立ち上がった。

(大島 愛子)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車で越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用いただけます。



さいたま市

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.42 2019年10月1日
(編集・発行)

さいたま市男女共同参画推進センター(愛称:パートナーシップさいたま)
編集員/大島 愛子・志田 小夜子・新藤 賢十郎・武田 礼子・三澤 裕子
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆ [パートナーシップさいたま](#) [検索](#)

10・3月発行(年2回)

この広報誌は65,000部作成し、1部当たりの印刷経費は5.7円です。